



須坂市立小山小学校だより

栃の子だより

平成 27 年 3 月 3 日

No.14

文責：寺島 寿一

栃の木のように 深く根を張り 幹太く 枝葉ゆたかな人

「春風や 闘志いだきて 丘に立つ」 高浜 虚子

3月2日(月)朝6時前から、長野県の北信・東信・中信の広範囲に渡った停電。通学路の信号機、学校の照明・ストーブ・トイレの水・電話・パソコン等、私たちの生活がいかに電気によって支えられていることが、わかりました。9時25分には復旧しましたが、給食の調理が間に合わず、給食センターで「いざ」という時に備えてあったレトルトの「救給カレー」と温かい汁物・牛乳・デザートのでんぱ餅で給食をいただきました。

4年前の3月11日は東日本大震災があり、その被害の大きさやライフラインが断たれた中、被災者のみなさんが落ち着いて行動された偉大さに認識を新たにしました。

いよいよ平成26年度も終盤を迎えます。3学期の終業式(3月18日)や卒業証書授与式(3月19日)を控え、歌や式の練習や準備そして現在の学年のまとめ等をしっかり行い、当日を迎えたいと思います。

第9回 人権を考える市民のつどい の感想より

1月31日(土) メセナホールで行われた「第9回 人権を考える市民のつどい」の小山小学校の学習発表について、多くの方々よりお褒めの言葉をいただきました。

一部紹介します。

小山小学校は、人権についていろいろな取り組みをして素晴らしいです。

手話を交えた合唱が大変良かったと思います。

また、はっきりとしたスピーチで聞きやすく、内容がよく伝わりました。



映像と大勢の方がわかりやすい語りで、取り組まれた内容が展開され、とてもよかった。

また最後の歌を聴き、ジワリと涙もいただきました。身近な周りの方へ心を伝えたい。

小学生の発表や歌が堂々としていて、感動した。お休みの午後ということで、「いやだなあ」と思っていたが、参加して本当によかった。

ごく自然な学習の流れで発表ができ、日常活動の大切さ、交流がよくわかりました。特に、先生方の研修の場面がビデオで紹介されていてとてもよかった。

最後の歌と締めくくりを見学が行ったことはとても価値があると思った。



最近老人二人暮らしで、生き生きとした子どもたちの姿を見ていなかったのが、すごく感動しました。

これから生きていく子どもたちの未来のためこの活動の必要性を感じました。

しかの子

かわいいしかの子が、一人で遊びに行きました。

キリンが首を長くして笑いました。

「君の首は、どうしてそんなに短いの」

しかの子は、首が短いのが悲しくなりました。

すると、ネズミが後ろで笑いました。

「首が短いのはいいけれど、しっぽはどこにあるの」

しかの子は、しっぽの短いのが悲しくなりました。

そばで聞いていたクマが、言いました。

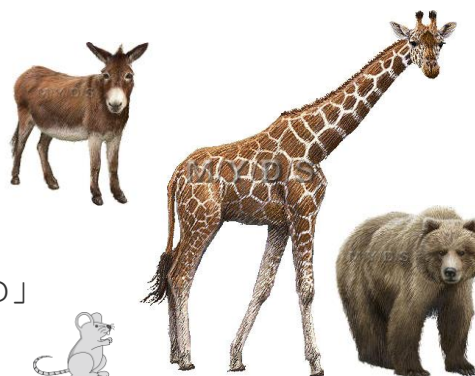
「お前の毛は、どうしてそんなに短いのかね。バリカンで刈られてしまったのかい」

しかの子は、毛が短いのが悲しくなりました。

2匹のロバが、長い耳を立てて

「まあ、このしかの子の耳の小さいこと、なんてみっともないんでしょう」

しかの子は、耳が小さいのが悲しくなりました。



みんなから、笑われて馬鹿にされたしかの子は、涙をいっぱいためて、お母さんのしかのところへ帰って行きました。お母さんのしかは、小鹿を優しくなめてやりながら、言いました。

「悲しがらなくてもいいのよ。みんなの言うことを、いろいろ聞いて、その通りになってごらん。それは、それは見苦しいケモノになってしまいますよ。お前は、やっぱり私のかわいいしかの子よ。わかりましたね」

しかの子が、キリン・ネズミ・クマ・ロバから言われたことは、どんなことだったでしょうか。

「首が短い」「しっぽはどこにあるの」「毛が短い・バリカン刈り」「耳が小さい」

しかの子にとっては、生まれながらの形質であり、自分では変えようのない体の特徴です。でも、これらのことは、しかにとって悲しむべきものでなければ、他の動物から比べて言われるべきものでもありません。

このお話を私たちに置き換えてみたら、どうなるでしょうか。

「顔が大きい」「目が小さい」「背が低い」など、友達の特徴から馬鹿にするようなことはありませんか。言われている人は、まさにしかの子であり、言っている人は、キリン・ネズミ・クマ・ロバなんです。

このお話では、お母さんのしかが、「悲しがらなくてもいいのよ。やっぱり私のかわいいしかの子よ」と言っています。今ある姿、それが「しか」であり、「首やしっぽや毛が長く、耳の大きなしか」であつたら見苦しいケモノになってしまうのです。

昨年 104 歳で亡くなった「まど・みちお」さんの童謡「ぞうさん」では、「ぞうさん ぞうさん おはながながいのね そうよ かあさんも ながいのよ」と歌われています。

この中で「お鼻が長いね」と悪口を言われた象の子どもが、「一番好きなお母さんも長いよ」と答えています。それは、子象が鼻が長いことを悲しんだりせず、逆に鼻が長いことに誇りを持ち、さらに他の動物と比べることなく他の動物と共に生きていこうという力強さを感じます。

みなさんも、容姿や考えの違いを理解し、学級や学年そして小山小学校など社会のいろいろな人の中で生きているという自信をもって成長して行ってほしいと思います。